

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 15 日現在

機関番号：32664

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520053

研究課題名（和文） インドに密教における葬儀の文献学的研究

研究課題名（英文） A Philological Study of the Indian Tantric Buddhist Funeral

研究代表者

種村 隆元（Tanemura Ryugen）

二松学舎大学・国際政治経済学部・非常勤講師

研究者番号：90401158

研究成果の概要（和文）：本研究は、(1) 後期インド密教の葬儀を規定するシューンヤサマーディヴァジラ著『死者の良い存在領域への差し向け方』のサンスクリット語原典の批判校訂テキストおよび詳細な訳註の作成を中心として、葬儀関連の一次資料を精査し、後期インド密教の葬儀のあり方の一端を明らかにするとともに、(2) シヴァ教およびヴェーダ文献に規定されている葬儀との比較を通じて、葬儀を通して見た、中世初期における仏教とシヴァ教やヴェーダの宗教との関係の一端を明らかにし、(3) さらに密教の葬送儀礼の思想的・教理的背景を考察した。

研究成果の概要（英文）：This research explains some aspects of Indian Tantric Funeral in the following four ways:(1) A critical edition and annotated Japanese translation of Sunyasamadhivajra's Mrtasugatiniyojana, which prescribes the procedure of Indian Tantric Buddhist funeral, have been made. Based upon the Mrtasugatiniyojana and some other related primary materials, the contents of the Indian Tantric Buddhist funeral have been examined. (2) Some of Saiva and Vedic texts teaching the funeral have also been examined. The relationship between Tantric Buddhism and Saivism has partly been explained through the comparison of the funerals of these two religions. (3) The ideas and the doctrines behind the Tantric Buddhist funeral have been examined.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学，印度哲学・仏教学

キーワード：インド密教，葬儀，シューンヤサマーディヴァジラ著『死者の良い存在領域への差し向け方』，パドマシュリーミトラ著『マンダラ儀軌』，密教とシヴァ教

## 1. 研究開始当初の背景

申請者が本研究を開始した当初，インド密教研究の分野において葬儀に関する文献が残されているにも関わらず，本格的な研究は皆

無に等しかった．このような状況の中，『死者の良い存在領域への差し向け方』のような葬儀を規定するマニュアル類の詳細な研究により，後期インド密教における葬儀の実態

が解明されることが期待された。また、現在着々と研究が進みつつある密教とシヴァ教の関係に関しても、具体的な儀礼の事例をもって、その一端を明らかになることが期待された。

## 2. 研究の目的

本研究は、(1) 後期インド密教の葬儀を規定する、シューンヤサマーディヴァジラ作『死者の良い存在領域への差し向け方』のサンスクリット語原典を中心として、他の葬儀関連の一次文献資料を精査し、後期インド密教における葬儀のあり方を文献的に解明し、(2) シヴァ教文献、あるいはヴェーダ・スマールタ文献に規定されている葬儀との比較を通じて、葬儀を通して見たインド中世初期における仏教とシヴァ教、ヴェーダ・スマールタの宗教との関係の一端を解明し、(3) さらに葬儀の思想的・教理的背景を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究においては、上記の目的を達成するために、以下の4つの具体的な方法を取った。

(1) 『死者の良い存在領域への差し向け方』のサンスクリット語原典の校訂テキスト並びに訳註の作成。これは本研究の中心的課題である。現存する2本のサンスクリット語写本およびチベット大蔵経に現存する2種のチベット語訳、さらには『死者の良い存在領域への差し向け方』のテキストを借用した『阿闍梨所作集』の「涅槃に赴いた阿闍梨の葬儀のあり方」章他関連文献に基づき、詳細な批判校訂ノートを付した校訂テキストを作成した。そしてこの校訂テキストに基づく和訳を詳細な註記とともに作成した。そしてこの基本作業を起点として、以下の(2)～(3)の作業を通じて、インド密教の葬儀の諸特徴を描き出すことに努めた。

(2) インド密教の葬儀関連文献の読解。『死者の良い存在領域への差し向け方』以外の葬儀を規定する文献を精査し、『死者の良い存在領域への差し向け方』との比較考察を行った。考察した文献は、パドマシュリーミトラ作『マンダラ儀軌』の最終章「死に際しての規定に基づく行為の説示」、『金剛阿闍梨最上理趣』に含まれる著者不明の『涅槃に赴いた阿闍梨への崇拜の次第』の断片、『悪趣清浄タントラ』、『悪趣清浄タントラ』関連の葬儀手引き書である。『死者の良い存在領域への差し向け方』とこれらの比較を通じて、インド密教の葬儀の核となる部分と差異の一端を描き出すことに務めた。

(3) シヴァ教の葬儀やヴェーダ・スマールタの葬儀関連文献との比較考察。密教の諸実践が主としてシヴァ教をモデルとしていることが指摘されている。本研究では、非シッダ

ータのシヴァ教に関しては、アビナヴァグプタ著『タントラの光明』の「死者救済のための入門儀礼」並びに「葬儀における入門儀礼」の章、シッダーンタに関してはソーマシャンブ著『ソーマシャンブ・パッダディ』「葬儀儀軌」章、パーシュパタ派に関してはガールグヤ著『葬儀儀軌』を検討し、『死者の良い存在領域への差し向け方』の規定する葬儀との比較検討を行った。また、インド宗教史におけるシヴァ教の葬儀の位置をつかむために、『ヴァイカーナサ・グリヒヤストラ』他のヴェーダ文献を検討した。

(4) インド密教の葬儀の背後にある仏教教理の考察。最後に密教の葬儀の教理的な側面を考察した。この点に関しては、『俱舍論』を始めとした伝統的なアビダルマ文献、あるいは『秘密集会タントラ』といった密教經典の教理と密教の葬儀との関係を検討した。

## 4. 研究成果

本研究において得られた成果は以下の通りである。

(1) 『死者の良い存在領域への差し向け方』は「死者蘇生のヨーガ・意識の遷移」と「悪しき存在領域の除去」という2つのパートから構成されている。

①前半の「死者蘇生のヨーガ・意識の遷移」の内、「死者蘇生のヨーガ」は『秘密集会タントラ』第14章に見られるローチャナー（仏眼母）の観想法をベースにしている。『死者の良い存在領域への差し向け方』の死者蘇生のヨーガの記述と、ジュニャーナパーダ流に属する『秘密集会タントラ』への註釈文献に見られる死者蘇生のヨーガに共通点が多いことから、『死者の良い存在領域への差し向け方』とジュニャーナパーダ流の近接関係が予想される。

②「意識の遷移」は、ウトウクランティと呼ばれる、ヨーガによる意図的な死を死者の意識の遷移に適用したものである。このウトウクランティは『秘密集会タントラ』本体には説かれておらず、『秘密集会タントラ』の一流派であるジュニャーナパーダ流の開祖ブッダシュリージュニャーナ著『大口伝書』に始めて説かれるものである。『死者の良い存在領域への差し向け方』は『秘密集会タントラ』の体系に基づいていることを明言しているが、「意識の遷移」の九門説は、『大口伝書』のそれとは異なるものである。

③後半の「悪しき存在領域の除去」は『悪趣清浄タントラ』に基づいているものである。(2) 次第の構成は多少異なるものの、「死者蘇生のヨーガ・意識の遷移」＋「悪しき存在領域の除去」とう構成は、パドマシュリーミトラ作『マンダラ儀軌』（当儀軌も『秘密集会タントラ』を典拠とすることを明言している）の規定する葬送儀礼にも共通している。

パドマシュリーミトラが採用する九門説は、『マンダラ儀軌』が『チャトウシュピータタントラ』を権威の一つとしていることから、『大口伝書』→『チャトウシュピータタントラ』→『マンダラ儀軌』という流れを描くことができる。

(3) 『死者の良い存在領域への差し向け方』の死者蘇生のヨーガにおける入門儀礼（灌頂）と『タントラの光明』の規定する死者に対する入門儀礼には以下のような共通点が存在する。

①死者の意識あるいはアートマンの死体への注入に際して、両者共に特別なヨーガを規定する。仏教側は種字より発せられる光線により他世界より意識を引き寄せ、シヴァ教側は、「大網のヨーガ」により、あたかも魚を網で捕らえるようにアートマンを捉え、死体に注入する。

②このように蘇生した死者に対して、灌頂あるいは入門儀礼を授けた上で、良い領域へと赴かせる。

このようなヨーガは教理的違いによる差異が相互に見られるが、大枠は共通している。

③ また、仏教とシヴァ教の興味ある相違点としては、シヴァ教側がこのような入門儀礼の対象者を「ヴェーダなどの下級の宗教の信徒」「誓戒を毀損した者」と規定しているのに対し、仏教側にはそのような制限が見られない点である。

(4) パドマシュリーミトラ著『マンダラ儀軌』の説く葬儀の構成とシヴァ教のシッダーンタに属する『ソーマシャンブ・パッダディ』の規定する葬送儀礼の構成は平行な関係にある。『マンダラ儀軌』が規定する諸儀礼の公共儀礼的な性格及びシッダーンタが公共分野における儀礼を担った事実を考慮すると興味深い事実である。

(5) ヴェーダ文献の規定する葬送儀礼は遺体の火葬が中心であり、後代のシヴァ教の規定する葬送儀礼と大きな質的な差がある。シヴァ教の古層に属するパーシュパタ派の葬送儀礼は、ヴェーダ文献の規定する葬送儀礼から後代のシヴァ教の儀礼の過渡期的な要素があることが確認された。今後の課題としては、仏教側において『死者の良い存在領域への差し向け方』以前の、古い時代の葬送儀礼を検討することによって、シヴァ教側とどのような平行があるのか、どのような点が異なるのかを検討する必要がある。

(6) 『死者の良い存在領域への差し向け方』の死者蘇生のヨーガにおいて、輪廻の主体とされる意識に「真っ赤な」という形容詞が付されるが、これは妊娠および経血を示唆すると考えられる。また、ジュニャーナパーダ流に属する『秘密集会タントラ』の諸註釈には、死者の意識を中有から引き寄せることが規定されている。中有がガンダルヴァと同一さ

れること、そしてそのガンダルヴァが父母の交合の場に存在することが受胎の条件であることを考慮すると、死者蘇生のヨーガの背景にはアビダルマ仏教以来の「中有」「再生」の概念が存在することが確認された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① 種村隆元. 「Padmasrimitra 作 Mandalopayika の規定する葬送儀礼について」『印度学仏教学研究』60-2, pp. 1038 - 1033, 2012年. 査読有.

② 種村隆元. 「Padmasrimitra 作 Mandalopayika の Antasthitikarmoddesa - Preliminary Edition 及び試訳」『現代密教』23, pp. 72 - 79, 2012年. 査読無.

③ 種村隆元. 「Sunyasamadhivajra 著作の葬儀マニュアル Mrtasugatiniyojana: サンスクリット語校訂テキストおよび註」『東洋文化研究所紀要』163, pp. 136 - 110, 2013年. 査読有.

④ 種村隆元. 「Sunyasamadhivajra 著作の葬儀マニュアル Mrtasugatiniyojana: 試訳および註」『Acta Tibetica et Buddhica』6, 印刷中, 2013年. 査読無.

[学会発表] (計2件)

① 種村隆元. 「Padmasrimitra 作 Mandalopayika の規定する葬送儀礼について」日本印度学仏教学会第62回学術大会. 2011年9月7日. 龍谷大学大宮学舎.

② 永ノ尾信悟. Development of the Funeral Rite. The Fifth International Vedic Workshop. 2011年9月20 - 23日. Hotel Novotel, Bucharest, Romania.

[図書] (計3件)

① 種村隆元. 『新アジア仏教史 02 インド II: 仏教の形成と展開』東京・佼成出版社, 2010年. pp. 209 - 262.

② 永ノ尾信悟. 『新アジア仏教史 01 インド I: 仏教出現の背景』東京・佼成出版社, 2010年. pp. 179 - 215.

③ 永ノ尾信悟. Hindu and Buddhist Initiations in India and Nepal. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag. 2010年. pp. 71 - 85.

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

種村 隆元 (Tanemura Ryugen)  
二松学舎大学・国際政治経済学部・非常勤  
講師  
研究者番号：90401158

### (2) 研究分担者

永ノ尾 信悟 (Einoo Shingo)  
東京大学・東洋文化研究所・教授  
研究者番号：40140959

### (3) 連携研究者

久間 泰賢 (Kyuma Taiken)  
三重大学・人文学部・准教授  
研究者番号：60324498